

アスベスト特集号 2017 年度版の発刊によせて

立命館アスベスト研究プロジェクトは 2005 年の発足以来、国内外のアスベスト災害に関する様々な局面に対して、学際的かつ多角的に調査研究に取り組んでおり、シンポジウムや国際会議、学術書、論文発表等を通じて成果発信を行ってきている。大学紀要『別冊政策科学』アスベスト特集号の発刊もその一環として、2008 年度の最初の刊行（特集号にはナンバリングを行っておらず、その後は年度もしくは特集テーマを付す形式にある）から数えて本特集号は 5 度目の刊行となる。

本プロジェクトでは当初、2005 年のクボタショックを受けて、アスベスト災害の政策研究の基礎を構築するべく、平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究 B、研究代表者：小幡範雄）の助成を受けて活動を行っていた。第 1 号に該当する 2008 年度の特集号はその研究活動の成果のとりまとめとして、環境科学・医学・建築学・経済学・政治学等の各分野からのアスベスト災害の検討に加え、アメリカ、中国、日本国内での実態解明・被害事例・公共政策での事例研究を所収しており、この時点での最新の知見と研究成果を網羅したものである。

その後、平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究 A、研究代表者：小幡範雄）や立命館大学研究推進プログラム（R-GIRO）等の助成を受けつつ、世界（特にアジア地域）へと視野を広げてアスベスト災害の研究調査活動を展開していった。特集号の刊行については、第 2 号に当たる 2010 年度「アジア編」ではアジア地域のアスベスト災害の総論ならびに韓国、台湾、香港、インドネシア、バングラデシュの現地調査に基づく研究論文を所収した。第 3 号に当たる「2011 年度版」ではアジア（インド、ベトナム）に加えてドイツ、イギリス、カナダ、さらに日本の建設労働者の被害問題についての研究論文を所収し、過去・現在のアスベスト消費国の検証・対比やアスベスト産出国の実態にも視野を広げていった。第 4 号に当たる「2012 年度版」では 2011 年東日本大震災での被害状況を鑑みて、アスベストのみならず原子力災害もテーマに加え、その共通項であるストック災害論の追求、震災アスベスト問題（災害廃棄物処理、被災自治体対策、被災地の実態）、国内の建設労働者のアスベスト問題（疫学調査、日雇い労働者）に関する研究論文・報告を所収した。

以上の研究活動・成果の蓄積を踏まえ、本研究プロジェクトでは現在 2 つの重点テーマに取り組んでいる。第一に大規模災害と有害性災害廃棄物の問題であり、2013 年度住友財団環境研究助成（研究テーマ「有害性災害廃棄物対策の行財政研究」、研究代表者：森裕之）に続いて、平成 26 年度科学研究費補助金（基盤研究 B、研究代表者：小幡範雄）の助成を受けて研究調査を行ってきた。第二にアスベスト災害の予防・補償・救済と国際的連関で

あり、平成 27 年度科学研究費補助金（基盤研究 A、研究代表者：森裕之）の助成を受けて研究調査を行ってきた。本特集号はこの両者の研究成果を中心に所収するものである。

第 I 部の「大規模災害での有害廃棄物対策と防災・復興研究」においては 4 論文を所収している。小幡による 2 論文は平時から震災時にかけてのアスベスト災害予防の総論的検討と災害廃棄物仮置き場の跡地利用をテーマとしており、それぞれ災害廃棄物対策を軸に防災と復興に焦点を当てた研究成果である。平岡・南の共同論文は自治体によるアスベスト・有害性災害廃棄物対策に焦点を当てたものであるが、最大の特徴は大気汚染防止法の規制権限を有する全国の自治体を対象とした、本研究プロジェクト実施のアンケート調査結果をベースにした議論という点である。南論文は 1995 年阪神・淡路大震災当時の被災地環境でのアスベスト飛散・対策の実態についての検討であるが、こちらも主体的に実施した住民アンケート調査に基づく調査研究であり、これらは独自性の高い研究成果である。

第 II 部の「アスベスト災害・公害の国際的連関と政策課題」においては 5 論文、1 国際会議報告を所収している。ここで焦点となるのは過去のアスベスト災害に対する補償・救済と、今後のアスベスト災害の予防の徹底を、国際関係を踏まえて追求することにある。森論文では訴訟中心でアスベスト被害補償が行われているアメリカの現状について検証し、特にアスベスト訴訟の増大による様々な悪影響の実態や被害補償制度のあり方についての教訓を明らかにしている。石原論文では現行の主要アスベスト消費国の一つであるタイのアスベスト消費と対策の実態や対策推進をめぐる国内動向についての調査研究を行っている。南論文では世界最大のアスベスト産出国であるロシアの原料アスベスト産業の実態と脱アスベスト化への展望を検討している。杉本論文では建築物等にストックされているアスベストによる災害予防の政策として世界でも先進的なイギリスの法制度・管理規制の運用についての解明・検討を行っている。永倉論文は日本でのアスベスト災害の実態に迫るものであり、社会問題化の時系列の中での各局面と近年のアスベスト飛散事故事例について、アスベスト問題の NPO 活動に長年取り組んでこられた著者自身による実体験を踏まえて論じている。国際会議報告は主にオランダで開催されたヨーロッパ・アスベスト・フォーラムへの参加報告であり、具体的なアスベスト対策の推進や技術・情報の共有化の取り組みを紹介するものである。

今号は 5 年の刊行ブランクにおける調査研究の蓄積を反映させる形で、総体的かつ充実した研究成果発信となったものと自負するものである。広くご参照いただければ望外の喜びである。

立命館アスベスト研究プロジェクト

小幡 範雄
森 裕之